

## 迅速な対処で救命を

救命救急24時・事故発生その時あなたは 2011.5.15「2011スプリングセミナーin倉吉」



▲講師の指導をしっかりと聞いて

JAM山陰青年協議会は、2011 スプリングセミナーを鳥取県倉吉市の倉吉体育文化会館で開催した。本年度は「救命救急24時・事故発生その時あなたは」をテーマに、心肺蘇生法からケガの応急処置まで幅広い研修内容を設定し、各労組の青年世代組合員ら34名が救命について学んだ。宮野浩二議長は、「AEDの使用や心肺蘇生などめったにする事はないだろうが、必要な時には人命がかかっている。もしもの時に役立つためにしっかりと覚えて帰って欲しい」とあいさつした。研修には、鳥取中部ふるさと広域消防局の福本宏道救命士、南幸治救命士、谷岡慎矢消防士の3名を講師に招き、普通救命救急講習を行った。福本救命士から「救命の基本は、どれだけ迅速に対応出来るかが重要。周囲の人による救命処置と一刻も早く病院に搬送するための協力が大事」との対処ポイントや心肺蘇生法とAED使用方法について講義された。参加者らは3グループに分かれ、心肺蘇生法とAED使用方法について全員が実習。質疑では、やけどや熱中症など傷病の対処法、救命士の仕事などの質問が出された。社内研修を受けた参加者もあったが、「時間とともに使用方法も忘れがち。実習出来て良かった」や「心肺蘇生など再確認出来た」などの声や、初めての救命研修を受けて「この経験を生かして、もしもの時に冷静・迅速に対処出来るよう心掛けたい」などの感想が寄せられた。



▲全員に修了証が交付された



▲心肺蘇生法、AEDの実習

### スプリングセミナー参加者の感想より

- ◆今セミナーは救命がテーマで勉強になった。いざという時に役に立てていきたい。
- ◆人工呼吸と胸部圧迫の体験は大変勉強になり、聞くだけの講習より良く理解出来た。
- ◆会社で労働災害が起きた時などにも、この体験を忘れないようにしたい。
- ◆分かり易く説明して頂き、救命救急について知らない事をたくさん知ることが出来た。
- ◆以前にも救命救急講習を受けたが忘れてることも多く、定期的に受けた方が、もしもの時に的確に対処出来ると思った。
- ◆心肺蘇生法やAED使用法など実習をする前は簡単なことだと思っていたが、やってみると大変だった。
- ◆講師の方の説明がとても分かり易く、時間も忘れて最後まで集中して学べた。

**スプリングセミナーを終えて**

今回のセミナーは、ポイントごとに質疑応答を行う形式で行なわれ、参加者からの質問も多く出された。また、わかり易く発生事例を挙げながら、聞いている人を飽きさせず説明して頂いた。実習では、心肺蘇生法やAEDの使用法を参加者一人ひとりが体験する参加型となりました。参加者からは「体験することで、より一層理解することが出来た非常に良いセミナーだった」との感想も多く寄せられました。

今後もこのような役立つ内容を検討し、誰もが楽しく参加しやすい企画を実施したいと考えています。

事務局 国友雅彦

## 自分たちの役割を発揮して

2011.4.28  
第6回執行委員会 ほか

JAM山陰は、第6回執行委員会を開催し、2011 春闘・夏季一時金と震災影響が深刻化する企業状況など協議した。執行委員会の冒頭、東日本大震災の被害者の方々に哀悼の意を表した黙とうが行なわれ、JAMの仲間と企業の被災状況の説明もされた。多久和執行委員長は「大震災の影響は世界に広まり、山陰の仲間も操業停止を余儀なくされている。日本の再生に向けた動きに全世界が注目しており、自分たちの置かれている立場で役割をしっかりと果たし、一日も早い復旧・復興を実現していかなければならない」とあいさつ。



▲鳥電労組へ争議支援金を授与

会議では、統一地方選挙結果や2011 春闘状況、各企業状況の報告と、夏季一時金方針、争議単組への連帯活動基金の支出などが協議された。連帯活動基金から、鳥取電機労組とトミタ電機労組への闘争支援金の支出の了承を受けて、鳥取電機労組の橋本委員長に対し支援金の授与も行なわれた。



### 次年度に繋げる活動を

第2回労働政策委員会が開催され、主に「2011 春闘中間総括」に向けた検討がされた。4月22日段階では、昨年を上回る回答を引き出しているが、震災の影響で、今後どのような結果になるか不透明であり、今後の状況をしっかりと把握することが重要。それを踏まえた春闘総括を行ない次年度に繋がる取り組みとすることを確認。この他、2011 夏季一時金の方針も議論され、本部方針に沿って進めることを確認した。

### 財政仕分けの実施で

JAM山陰は、第2回総務財政委員会を開催。大幅な組織人員減に伴う交付金が減少する対策として「2012年以降財政シュミレーション」を中心とした予算案の検討がされた。2011年度の財政執行状況の説明を受けて、スクラップ&ビルド方式で、事業仕分けならぬ財政仕分けを実施。細部にわたって見直しを図りムダの徹底排除と必要な部分の補強が検討された。また、外部役員への就任調査から、費用補填は今後の検討として確認された。



### 震災影響に労使で注意を

2011.5.7 出雲地協「第5回単組代表者会議」



出雲地協は、第5回単組代表者会議を出雲市の武志山荘にて開催し、13単組から単組代表者ら19名が出席した。山岡議長は、「東日本大震災の影響で、3月から4月に地協内の自動車関係企業を中心とした一時帰休などの雇用調整が行われた。今後の影響に全単組とも労使でチェックし対応して欲しい」と要請。また春闘や一時金の取り組みについては「まだ解決していない単組は、早期解決へ全力で頑張ってもらいたい。これから夏季一時金の交渉単組は、組合員の生活防衛へしっかりと頑張ってもらいたい」と呼びかけた。会議では、執行委員会と統一地方選の報告や、外部役員について協議し責任単組から引き続き選出する旨了承された。

### 集まれば文殊の知恵も

2011.5.21 松江地協「第4回単組代表者会議」



松江地協は、松江市昭和町「串屋鉄男」にて単組代表者会議を開催。9単組の代表者と来賓を含め14名が出席した。細木芳治議長(JUKI 松江)は「松江地協の仲間が集まりやすいように土曜日の夕方の開催としたところ、ほとんどの単組から出席頂いた。厳しさは続くが震災影響も徐々に回復してきている。地協の仲間の力合わせ・心合わせで、この難局を乗り切っていこう」とあいさつした。ろうきん松江支店から、借り換えキャンペーンのPRや商品説明も行なわれ、代表者らは器材を手に耳を傾けていた。その後の交流懇親会では、春闘や企業状況、労使関係まで幅広い話題で意見交換が実施された。

# 復旧と復興へ、微力だけど無力じゃないから。

2011.4.24-5.2 JAM被災地救援ボランティア「第4クール派遣団」

JAMでは、連合の救援ボランティア活動へ全力で取り組むことを決定し3月末から現地へ派遣。山陰からは4/24～5/2の第4クールに、山田忠さん(日庄ST)と盛山修さん(神鋼機器工業)の2名が参加した。

現地では、床下に溜まったヘドロの除去、被害を受けた家屋の清掃や瓦礫の除去、救援物資の仕分けなどを行った。

当初は、不慣れなこともあり思うように作業が進まなかったらしいものの、日を迫るごとに作業にも慣れ、仲間同士の連帯を深め予定した活動を無事に終えた。今後、山陰からは6/3～6/11と6/11～6/19までの2クールに各2名を派遣していく。



▲床下のヘドロ除去作業へ一致団結

## 少しでも多く何かしてあげたい

山田 忠さん(日庄スーパーテクノロジーズ労組)



新聞・テレビで、毎日のように瓦礫の山の映像が出ますが、実際に目を見ると、地震・津波の威力は測り知れず「本当なの？」と目を疑いたくなる光景でした。大火事で焼け野原になった場所、地盤沈下による冠水、道路を確保するために路肩に積み上げられた瓦礫の山、どこから流されてきたのか判らない車や漁船があまりに多すぎ、まったく処理が追いついていない状況でした。

作業現場では、被害があった家屋の中に入ると、誰も指示しなくても作業の役割分担が決まり、自然に連携プレーが出来ていました。「少しでも多く何かしてあげたい！」とみんなの思いが行動に現れたと感じています。日々、肉体労働で筋肉痛になりましたが「ありがとうございました」「ほんと助かりました」などの言葉を頂き励みになりました。ほんの少しですが、復興につながる手助けが出来たのかなと思います。

ボランティアに参加して

## 復興の一助に一致団結

盛山 修さん(JAM神鋼機器工業労組)



ボランティア派遣が決まって、テレビ等で報道されている現地がどうなっているのか、どんなボランティア活動になるのか、少し不安を抱えながらも一生懸命活動しようと決意して行きました。初日は、翌日からの作業準備の後、就寝となりましたが、不安と緊張で眠れませんでした。翌日、初めて被災地を目の当りにしました。倒壊した家屋や流された車がそのまま残っており、その現状は信じられない程で、我々の活動がその一助になればと願い、心を新たに頑張ろうと思いました。被災者の方々も、暖かく迎えて下さり、手を振ってくれる学生もいて、力強く前向きに生きる姿に勇気をもらいました。救援ボランティアとして、全員が一致団結して取組み、連帯を強めて活動出来たことは、良い経験となりました。何年後になるか分からないけど、必ず復興を遂げた姿を見たいと強く思いました。

## 仲間の交流を深めよう 2011.5.22 出雲地協「単組交流ボウリング大会」

出雲地協の単組交流ボウリング大会が、5月22日に出雲会館センターボウルで開催され、10単組から15チームがエントリー、総勢50名以上が参加した。山岡議長は開会式で「東日本大震災により開催自粛も検討したが、各単組の組合員同士が交流する機会から遠ざかっていたこともあり、復旧・復興支援レクとして開催に踏み切った。このような交流会にどんどん参加してもらい、出雲地協の仲間同士のつながりを、更に深めて頂きたい」とあいさつ。ボウリング大会では、1チーム3名で行なわれる団体戦と個人戦で競い、参加者らは一投ごと一喜一憂の盛り上がり。団体戦ではヒカワ精工チームが優勝。個人戦では、JMS労組の伊藤清香さんが優勝した。大会終了後、表彰式を兼ねた交流懇親会も開催され、ボウリング結果も然る事ながら職場や組合活動の話などで交流が深められた。



▲好プレーに盛り上がるメンバー

## 激戦を制し勢力拡大

第17回統一地方選ダイジェスト

第17回統一地方選「鳥取・島根県議選」は、4月1日に告示され10日の投開票で行われた。JAM山陰は鳥取県で6名と、島根県で8名の計14名を推薦し、地協・単組一丸となり候補者の当選を目指して活動を展開。

今回の選挙は、民主党への逆風や、東北地方大震災の影響による選挙活動自粛ムードの中で行われ、非常に厳しく難しい選挙戦となった。結果、山陰両県で11名の県議会議員が誕生したものの、安来市選挙区では石橋富士雄民主党島根県連代表代行が議席を失い、米子市と鹿足郡の新人候補2名も議席を獲得することが出来なかった。

### 若さで県政に新たな風を

鳥取市(定数12/立候補16・有権者数156,348人・投票率56.82%)

鳥取市選挙区は、告示前に定数12議席の内8議席がほぼ確定と言われ、残る4議席を8名で争う形と言われていた。さかの候補は、自転車で市内を駆け回るなど若さをアピールし、最後まで選対の引き締めを図り全員が緩むことなく、戦後2番目の若さで4位当選を決めた。

【本人のコメント】若干27歳の自分を支えて頂いた全ての皆様に感謝します。「絆」という言葉を胸に、選挙中の訴えを実現に向け県民のために働きます。



### 大激戦を制し議席を奪還

八束郡(定数1/立候補2・有権者数11,343人・投票率64.93%)

八束郡選挙区は、前回民主が失った議席の奪還をめざし、自民現職との一騎打ちとなった。石原候補は、元町長という実績から即戦力をアピール。支援者らも、電話作戦や知人・友人にきめ細かく声をかけ選挙戦を展開。4月6日総決起集会には、600名以上の支持者が集り終盤の引き締めを図り、140票差で激戦を制した。

【本人のコメント】議員になることが目標や仕事ではない。これから皆さんのために何が出来るか何をするのか、東出雲町が力強い歩みを続けられるよう、責任と使命を果たす。



### 保守王国に風穴を

雲南・飯石(定数3/立候補4・有権者数40,277人・投票率78.91%)



雲南・飯石選挙区は、前回同様、連合・民主党・国民新党・社民党の支援体制で闘った。

終盤に入り、2議席を3人が横一線で大激戦の展開となり、選対も引き締めを図り、各単組に電話作戦などを徹底的に取り組んだ。本人も、地域医療の充実、雇用の場の確保など地域の安心安全の確保を訴え、最後まで懸命に走り続けた結果36年ぶりに雲南で反自民の議席を勝ち取った。

【本人のコメント】この4年間皆さんに支えてもらい、この保守王国で勝ち抜かなければならぬと思いで活動してきた。皆さんの声を県政に届け、中山間地域が発展することに全力を挙げて取り組んで行きたい。

### 勤労者の声を県政へ 2011.5.17 統一地方選「御礼オルグ」

4月に実施された島根県議選出雲選挙区で、当選した珍部よしひろ県議は、出雲・松江地協の20単組に対し御礼オルグを実施した。珍部氏は「無投票でしたが2期目の再選を果たすことが出来ました。皆さんの声をどんどん聞かせてもらい、勤労者の代表として県政に反映出来るよう、一生懸命活動します」とお礼と決意を述べた。

同行した川野書記長は「珍部県議の無投票当選は日頃の活動成果。さらに単組や組合員の協力により盤石な支援体制が整ったことで、新たな立候補を寄せ付けなかった。この間の皆様のご支援・ご協力に感謝します」と伝えた。山岡出雲地協議長も「珍部議員に、地協の仲間の意見や要望をどんどんあげて汗をかいてもらおう」と各単組へ呼びかけた。単組からは「出雲空港の利用促進と利便性に関する提案」や、いまや生活道となっている「山陰道の三刀屋や出雲ICから松江・玉造IC間の無料廃止に対する意見や要望」などが寄せられ、珍部県議も「貴重な意見として議会質問などで反映したい。実現へは言い続けることが大事」と返答した。



▲勤労者の代表で頑張ります